

# 香川の外に繋げよう！

## ～高校生と結ぶ盆栽の縁～

代表者 桑原優月（経済学部経済学科2年）

### 1. 目的と概要

現在、海外において日本の文化や伝統工芸は『cool japan』と評価されており、盆栽も『BONSAI』の表記で海外からの人気が高まっている。

一方で、香川県高松市は松盆栽の全国シェアの約8割を占める名産地であるにもかかわらず、国内における高松盆栽の認知度は低く、若い世代には親しみがない、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。これらの背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」「高齢者」「高価」のような親しみにくいイメージが影響していると考えられる。

そこで、世間のイメージとは正反対の私たち女子大生が、プロの盆栽作家と盆栽に興味を持つ初心者を繋ぐ架け橋のような存在となり、高松盆栽の認知度向上を目指すことを目的として活動している。今年度は、香川県外の高校生をメインターゲットとして、苔玉作り体験のワークショップを開催した。



### 2. 実施期間（実施日）

令和4年6月29日から 令和5年3月31日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

今年度の事業では、香川県外の高校生をターゲットとした苔玉作り体験のワークショップを行った。計6回のワークショップを実施し、総参加者数は129人となった。高校生向けのワークショップでは、普段の活動で行っている苔玉作り体験に加えて、香川大学の特色やプロジェクト活動の紹介、大学生活や受験のアドバイスなどを行う時間を設けた。高松盆栽だけでなく香川大学の魅力も伝えられる機会にもなったと考えられる。高校生向

けのワークショップの流れとしては、高松盆栽についての説明、苔玉作り体験、大学やプロジェクトの紹介と高校生との交流会である。交流会では座談会形式で質疑応答を行うことで、高校生からの大学や受験に関する多くの疑問に答えられた。

1回目は、9月21日に徳島県立脇町高等学校で開催した。参加者は生徒7名、教員3名の計10名であった。参加者が少数であったこともあり、一人ひとりの進行状況に合わせてサポートができて、準備や片づけを含めスムーズに進めることが出来た。経済学部メンバーが多数であるため、香川大学の他学部志望の高校生のためにも質問の準備をしておく必要があるといった課題も見つかった。



↑ 苔玉作りの説明の様子



↑ 高校生との交流の様子

2回目は、10月5日に高知県の私立土佐女子高等学校で開催した。参加者は生徒21名であった。苔玉作り体験では、参加者から土の扱い方などの積極的な質問もあり、盆栽の苔玉に興味を持った学生も多かったと感じる。メンバーの母校であることもあり、ワークショップ後も多くの高校生から質問が寄せられ、香川大学での生活を紹介する良い機会となった。

75分に限られた比較的短い時間でのワークショップであったがそれまでに行ってきたワークショップの経験を生かして時間配分もできた。

3回目は、12月17日に私立大手前高等学校で開催した。参加者は生徒14名、教員4名の計18名であった。予定に余裕を持って準備していたため、全体的に丁寧な進行ができたワークショップとなった。改善点として、メンバーが苔玉作りを手伝う時に使用するビニール手袋や予備の土を多めに持っていくことが挙げられた。



↑ 苔玉作りのサポートの様子

また、ワークショップの間も高校生に話しかけるなど楽しんでもらえるように取り組んだ。



↑ 香川大学紹介の様子

4回目は、12月21日に岡山県立岡山南高等学校で開催した。参加者は生徒13名であった。香川大学を志望する高校生や進路がすでに決まっている高校生がいたため、交流の場が弾んだのが印象的である。事前に高校の先生方と打ち合わせを行っていたので当日も予定通りの時間にワークショップを終えることができた。

5回目は、12月27日に岡山県立総社南高等学校で開催した。参加者は生徒26名、教員4名の計30名であった。参加者の人数が多かったため、机を班ごとにして、メンバーの配置を分担することで対応した。反省点として、備品管理やプロジェクト室の荷物整理の面でトラブルがあったため、その後のミーティングで反省点を共有し、管理を徹底するよう話し合いを行った。



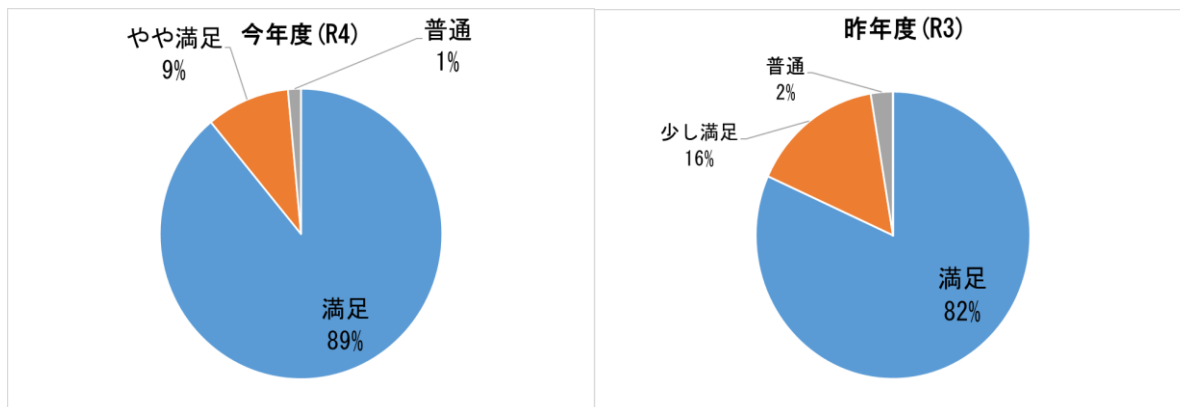
↑ 高松盆栽の説明の様子



6回目は、3月2日に高松商業高等学校で開催した。参加者は生徒37名であった。ワークショップの時間が45分×2コマと制限があったなか、時間配分を予め行うことでスムーズな進行ができた。前回の反省を踏まえ、ワークショップの前後に忘れ物を防止するための持ち物チェックリストを活用した。結果的に準備や片づけの時間削減にもなったため、今後も活用していきたい。

## 【アンケート集計】

### 問. ワークショップの満足度



以上の事業により、高校生などの若者を中心に多くの方が盆栽に触れる機会を創出できた。昨年度の香川県内の高校生向けワークショップから、今年度は県外の高校の数を増やしたことで、活動の範囲が広がった。ワークショップ後に行ったアンケート結果からも参加者の満足度は昨年度と比較しても高まっており、今後も継続してワークショップを行っていききたい。さらには、ワークショップの開催により普段関わる機会がなかった地域の方と交流を深めることもできた。今後もプロジェクト事業を通して、高松盆栽の魅力伝える場や地域の方とのつながりを大切にしていきたい。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、高松盆栽の認知度向上だけでなく、香川大学や Bonsai ☆Girls Project の知名度も向上させることができた。今年度、新たに実施した香川県外の高校生向けワークショップでは、県外の高校生に高松盆栽の存在を知ってもらう機会となった。さらに、香川大学の紹介や他の地域活性化プロジェクトの紹介なども行った。大学受験を控える高校生に向けて将来香川大学に進学したい、プロジェクトに参加したいと思ってもらえるきっかけを創出することができた。また、自身の SNS での情報発信や地元インターネットメディアである「ガーカガワ」による取材などを通して、高松盆栽や香川大学の地域活性化プロジェクトの魅力を PR することができた。

地域社会に与えた影響としては、香川の名産品である高松盆栽を通じて、鬼無地区や国分寺地区といった地域の活性化に貢献することができた。次世代に盆栽の魅力をアピールすることで、冒頭に述べたような盆栽業界の課題解決にもつながると考えている。また、定期的な盆栽教室やワークショップの開催により、地元の盆栽作家や企業、学校等とのつながりを持つことができた。さらに、プロジェクト活動を通して、私たち学生も責任感や協調性など社会に出て役立つ能力を培うことができたと感じている。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今年度開催したワークショップは、昨年度に引き続き、主に高校生を対象としたものであった。高校生向けのワークショップはこれまでの活動で行っていたことから、従来のワークショップとは異なる要素を取り入れようとメンバー間で意見を出し合った。そして、香川県外の高校でワークショップを行うことで、活動範囲が広がったことを実感した。香川大学の紹介や大学生活についてのプレゼンテーション、高校生との交流を通して、参加者から高い評価を得ることができた。マニュアル化した活動のなかに新たな要素を加えることで、より主体性や発想力が身についたと考える。ワークショップ後には必ず振り返りを行い、反省点や課題を見出してプロジェクト内で解決策を模索し、今後のワークショップに生かした。また、高校の教職員の方々との交流を通して、礼儀作法やマナーについても学ぶことができた。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点は大きく2つある。

1つ目は、ワークショップの開催場所の決定に時間を要した点である。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、香川県外の高校からの受け入れに苦戦した。結果として、全体の活動に遅れが生じ、経費の執行が年度末に集中してしまった。今年度、高校に連絡したが開催が叶わなかった高校は7校あり、その中には行事予定がすでに決まっているため年度中の開催が難しいという回答が多くあった。開催場所の候補出しや連絡を早めにするべきであったと感じている。今回の反省を踏まえ、今後はワークショップの開催場所を決める際には、計画に遅れが生じないようにプロジェクト全体で担当するメンバーが決まったらすぐに交渉したり、開催場所の候補の数を増やしたりするなど柔軟な対応を心掛けていきたい。

2つ目は、ワークショップの際の備品管理が行き届いていなかったことである。ワークショップを行った高校に備品を置き忘れてしまったことで、道具をお借りしている盆栽園の方にご迷惑をかけてしまった。メンバー全員に共有し、再発防止策を考えた。対策として、ワークショップの前後で備品の管理ができるようにチェックリストを作成した。ワークショップに参加するメンバーは、備品管理を徹底し、ワークショップを行うことに責任感を持って行動していきたい。

これらの反省点を踏まえて、来年度は現存のワークショップに新しい要素を加えながらも高松盆栽の魅力発信やプロジェクトの認知度向上を実現するため、より質の高いワークショップをメンバー全員で作り上げていきたい。

## 7. 実施メンバー

代表者	桑原 優月 (経済学部 2年)	家喜 あすみ (経済学部 4年)
構成員	芦田 咲月 (経済学部 4年)	河野 智美 (経済学部 4年)
	楠 結衣 (経済学部 4年)	近藤 里紗 (経済学部 4年)
	小林 由佳 (経済学部 4年)	高山 佳恋 (経済学部 4年)
	篠原 鈴花 (経済学部 4年)	山形 亜実莉 (経済学部 4年)
	槌道 由奈 (経済学部 4年)	梶川 瑠璃 (経済学部 3年)
	岡本 奈々 (経済学部 3年)	植田 菜月 (経済学部 2年)
	永野 由 (経済学部 3年)	香川 夏実 (経済学部 2年)
	應江 あかり (経済学部 2年)	河原 由依 (経済学部 2年)
	川原 つかさ (経済学部 2年)	森前 ひなた (経済学部 2年)
	美馬 妃華 (経済学部 2年)	大井 香穂 (経済学部 1年)
	渡部 里莉花 (経済学部 2年)	嶋津 千咲 (創造工学部 1年)
	竹本 理世 (経済学部 1年)	

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		298,160円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
苔玉材料(9月21日分)	10	1,650	16,500	
苔玉材料(10月5日分)	21	1,650	34,650	
苔玉材料(12月17日分)	18	1,650	29,700	
苔玉材料(12月21日分)	13	1,650	21,450	
苔玉材料(12月27日分)	30	1,650	49,500	
苔玉材料(3月2日分)	37	1,650	61,050	
合計			212,850	